

# 愛知県感染症情報

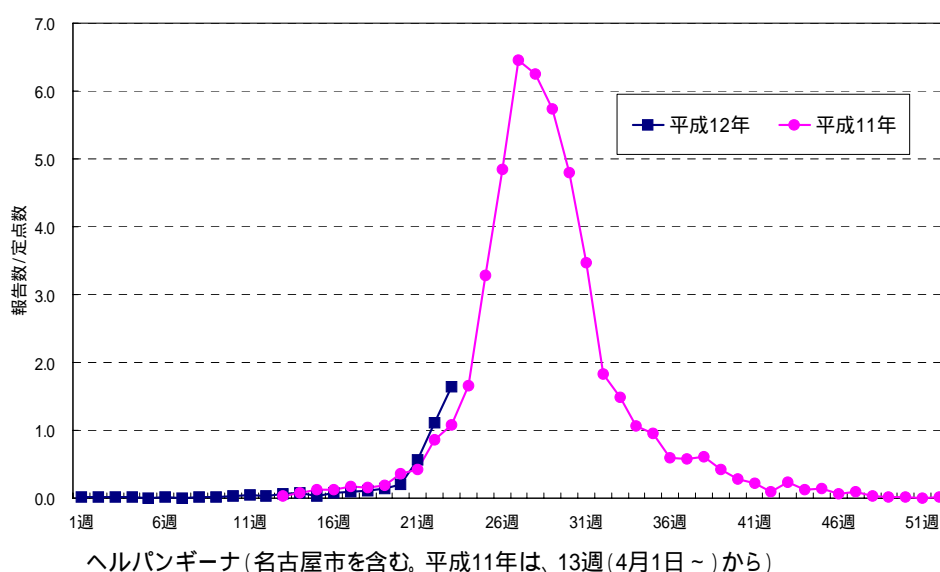
## 平成 12 年第 23 週（6 月第 1 週）

（コメント）

A 群溶血性連鎖球菌咽頭炎及び伝染性紅斑は、昨年より報告数が多く流行中です。

流行性耳下腺炎は散発が見られます。

ヘルパンギーナの報告数は増加中で、これからピークをむかえると思われるので注意してください。



（先生方からのコメント）

### ● 尾張西部地区

- ・ 病原性大腸菌性大腸炎 O-1 2名（5歳男、55歳女）、O-6 7歳女、O-128 9歳男、O-146 62歳男  
便アデノウイルス抗原陽性 2名（4歳男、5歳女）  
便ロタウイルス抗原陽性 2ヶ月男  
マイコプラズマ肺炎 4名（2歳男、4歳女、5歳男、9歳男）  
A 群 溶連菌感染症 3名（5歳男 2名、6歳女）

（尾西市 城後小児科）

- ・ ムンプス（流行性耳下腺炎）、溶連菌感染症続発中  
ムンプス髄膜炎もあり（耳下腺腫脹消失後病日8日目から発症）  
（岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック）
- ・ ヘルパンギーナ増加してきました。

（江南市 みやぐちこどもクリニック）

● 尾張東部地区

- ・ 水痘、溶連菌感染症流行中。突発性発疹も相変わらずよく認められます。流行性耳下腺炎増加傾向か。（4歳男児はワクチン接種歴あり）

（尾張旭市 佐伯小児科医院）

- ・ カンピロバクター腸炎 9歳男  
（瀬戸市 津田こどもクリニック）

- ・ 百日咳 10ヶ月女、風疹 30代男  
SSSS\*（皮膚粘膜熱症性症候群） 7歳男

（半田市 医療法人林医院）

SSSS\* は Staphylococcal Scalded Skin Syndrome の略

- ・ 水痘症散発

（南知多町 医療法人大岩医院）

- ・ 発熱、頭痛、嘔吐あるも首の硬直(-) 2日位で治療例散見。

（美浜町 愛知県厚生農業協同組合連合会知多厚生病院）

- ・ リンゴ病（伝染性紅斑）がみられるようになりました。

（春日井市 朝宮こどもクリニック）

- ・ 水痘の流行がまだ続いているようです。

（春日井市 かちがわ北病院）

- ・ 麻疹流行のきざしあり。麻疹予防接種している児も麻疹に罹患（2名）。無菌性髄膜炎1名。溶連菌感染症小流行。

（小牧市 小牧市民病院小児科）

- ・ 麻疹が流行しそう。

（小牧市 志水こどもクリニック）

- ・ サルモネラ腸炎 O-4 5歳女

ヘルペス口内炎 1歳女

（東海市 小児科ハヤカワ医院）

● 西三河地区

- ・ カンピロバクター2名（6歳女、16歳男）

（豊田市 やふそ小児科）

- ・ カンピロバクター腸炎 11歳男

病原大腸菌 O-18 1歳男

マイコプラズマ肺炎 6歳男

（豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック）

- ・ ヘルパンギーナの増加が目立ちます。

水痘が相変わらずみられます。

（岡崎市 小児科延寿堂杉浦医院）

- ・ 病原性大腸菌 VT1・VT2(-) 9歳女  
(岡崎市 医療法人深田小児科)
- ・ 咽頭結膜熱様の患者ポチポチ  
ヘルパンギーナも増加中です。  
(岡崎市 花田こどもクリニック)
- ・ ムンプス増加傾向。ムンプス髄膜炎 6歳男  
(碧南市 永井小児クリニック)
- ・ ムンプスが流行中。ワクチン接種例が1名。  
溶連菌感染症は、発疹が強くしょう紅熱様の症例です。  
(西尾市 やすい小児科)
- ・ ムンプスちらほら。手足口病2人。  
(知立市 宮谷クリニック)
- 東三河地区
  - ・ 水痘及びムンプス 大きな流行はないが、散発しています。  
(田原町 かわせ小児科)

(1~3類感染症の発生状況)

腸管出血性大腸菌感染症患者2名。

- ・ 安城保健所から報告の37歳男 6/1発病、6/3初診、6/7診定。菌型は、O-157 VT2(+)
- ・ 豊田市保健所から報告の3歳男 6/1発病、6/4初診、6/6診定。菌型は、O-157 VT1・VT2(+)

腸管出血性大腸菌保有者2名

- ・ 豊田市保健所から報告の34歳女 6/9初診、6/9診定。菌型は、O-157 VT2(+)
- ・ 知多保健所から報告の7歳男 6/7発病、6/7初診、6/10診定。菌型は、O-157 VT2(+)

(全数把握の4類感染症の発生状況)

アメーバ赤痢患者1名。

#### 第 20 週（5 月 15 日～5 月 21 日）の 4 類感染症の全国状況

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎の定点当たり報告数が例年の同時期よりかなり多く、過去 10 年間で最大の流行曲線を描いている。患者の年齢階級別で見ると、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、3 歳から 7 歳の小児が全体の 70%を占め、ピークは 4～6 歳にある。感染性胃腸炎は 7 歳以下の小児が全体の 74%を占め、ピークは先週までは 1 歳にあったが、今週は 4 歳にシフトしている。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は鳥取県で定点当たり報告数 5.3、宮崎県で定点当たり報告数 5.2 と多くなっている。感染性胃腸炎は福井、鳥取、山口、愛媛、大分、宮崎の各県で定点当たり報告数が 10 を越えている。水痘と咽頭結膜熱は、例年の同時期に比べ定点当たり報告数がやや多くなっている。手足口病は熊本県で流行中で、定点当たり報告数が 7.9 と多く、患者から EV71 が分離

されたと報告されている。同県では今週無菌性髄膜炎も 8 例と多くなっており、EV71 が分離された例が報告された。麻疹は依然大阪府や千葉県で大きな流行となっている。流行性角結膜炎は宮崎県、茨城県、栃木県などで定点当たり報告数が多くなっている。

（Infectious Diseases Weekly Report より抜粋

厚生省感染症研究所感染症情報センター感染症情報室提供）

#### 第 21 週（5 月 22 日～5 月 28 日）の 4 類感染症の全国状況

水痘の報告が全国的にかなり多くなっている。流行は全国的に見られるが、中でも報告が多いのは、宮崎県の定点当たり 7.8、佐賀県の 6.5、大分県の 5.9、新潟県の 5.6、福井県の 5.2 などである。患者の年齢は 1～4 歳が最も多く、この年齢階級に全体の 68%が入っている。インフルエンザは、奈良県で定点当たり報告数 16.5、和歌山県で 11.3、愛知県で 11.0、宮城県で 10.4、大阪府で 10.2 と多くなっている。咽頭結膜熱は非流行期であるが、患者報告が散見されている

（Infectious Diseases Weekly Report より抜粋

厚生省感染症研究所感染症情報センター感染症情報室提供）

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

梅雨冷えの日が続いています。以前は田植えが終わると手足口病の季節だ、と言ったものですが今年は少し遅れるかもしれません。いつも貴重な情報を有難うございます。5月後半のまとめをお送りします。

1. 名古屋市内：ウイルス性胃腸炎や病原性大腸菌O18による細菌性腸炎の目立つ地区もありますが市全体としては消化器感染症は下火です（第一日赤有吉先生、三菱病院岩間先生）。気道感染症ではマイコプラズマ感染症を含む肺炎・気管支炎、発熱と嘔吐の感冒症候群が目立つ地区やヘルパンギーナの散発が始まった地区の報告が届いています（第一日赤有吉先生、千種区今枝先生、名鉄病院宮津先生、第二日赤岩佐先生、労災病院伊藤先生）。市全域でムンプスが発生中で髄膜炎の合併も目立っています（名鉄病院宮津先生、第一日赤有吉先生、労災病院伊藤先生）。その他溶連菌感染症、水痘、EBウイルス感染症、膿痂疹などのご報告（第一日赤有吉先生、国立病院松下先生、城北病院渡辺先生、千種区今枝先生、労災病院伊藤先生）が目につき、注目したいのはワクチン未接種児の麻疹が各地区で散発して肺炎などの合併症による入院が目立っています（城北病院渡辺先生、三菱病院岩間先生、労災病院伊藤先生）。

2. 尾張地区：犬山市武内先生からは水痘がやや目立ち感染性胃腸炎、ヘルパンギーナ、突発疹が散発中、津島市民病院長田先生からは麻疹と水痘が目立つ、江南市からは溶連菌感染症、咳が目立つ気道炎（クラミジア？）とマイコプラズマ感染症、川崎病、麻疹散発などのお手紙で（昭和病院丸地先生、愛北病院水谷先生）、岩倉市永吉先生からは溶連菌感染症、ムンプス、水痘、CRPの高い発熱例が多発、百日咳2例、常滑市民病院肥田先生からは水痘の小流行と腹痛・嘔吐を伴う感冒流行中、市立半田病院中島先生からはムンプスと水痘の小流行と2ヵ月児の脳症を合併、痙攣重積と無呼吸発作のために呼吸管理を要した例あり、麻疹1例ありとのお手紙でした。

3. 三河地区：豊田地区では水痘、喘息発作や咳の患者が増加中で、肺炎の入院例が目立ち、百日咳や麻疹の入院例、腸チフスの輸入例あり（トヨタ病院木戸先生、加茂病院大須賀先生）、安城更生病院小川先生からは水痘とウイルス性胃腸炎がやや増加中でムンプス髄膜炎2例入院、知立市近藤先生からは乳幼児の水痘と小学生の溶連菌感染症が目立ちサルモネラ（O9）、病原性大腸菌（O1、O6）の下痢症あり、感冒性下痢症散発中、刈谷市田和先生からは溶連菌感染症、水痘、ムンプス、感染性胃腸炎が散発中、碧南市永井先生からは溶連菌感染症と水痘が相変わらずでムンプスが増加中、豊橋市宮澤先生からは伝染性紅斑、水痘、突発疹、細菌性腸炎が目立ち5月末にヘルパンギーナ様発熱、無菌性髄膜炎ありとのお手紙をいただきました。有難うございました

2 0 0 0 年 4 月 2 1 日号 ( 7 5 卷 1 6 号 )

髄膜炎菌性髄膜炎：サウジアラビア；メッカ巡礼月間に 1 9 9 例（死亡例 5 5）。A 群 5 5 例のうち W 1 3 5 型 3 0 例、B 型 1 例。本年のメッカ巡礼月間の巡礼者は約 1 3 0 万人で東南アジアからの渡航者が増加。当局による調査が進行中。（注：前回報告のようにサハラ砂漠の南縁諸国など髄膜炎菌常在国のイスラム教徒保菌者によるメッカ巡礼者の持ち込みが問題となっている）。フランス；フランス居住のイスラム教徒のメッカ巡礼帰国者の罹患者増加。1 4 例（死亡 4 例）。血清型は W 1 3 5。オランダ；4 月に入って同上メッカ巡礼帰国者の接触者 3 例発病。血清型は同じく W 1 3 5。オマーン；3 月～4 月、メッカ巡礼帰国者と接触者から 1 2 例発病。英国；メッカ巡礼者関連罹患者増加。2 2 例（死亡 4 例）。

マラリア：ドミニカ共和国；マラリア予防内服。年間を通じてマラリア（悪性の熱帯熱マラリア）発生（特に西部の農村地区）。この地区における熱帯熱マラリア原虫の薬剤耐性発生状況はなく、W H O 推奨の予防内服薬はクロロキン。

食品原料動物に対する抗生物質使用：0 0 年 1 月 1 3 日 - 1 5 日に専門家会議が開催されて 6 月 5 - 9 日に勧告の原案準備の会議の予定。

食品微生物学：第 1 5 回の W H O 主催の食品微生物学コ - ス開催の予告。

4 月 1 4 日 - 2 0 日届出。コレラ：ケニア、ザンビア。

2 0 0 0 年 4 月 2 8 日号 ( 7 5 卷 1 7 号 )

野兔病：コソボ地区；確認例 2 5 0。全地域に発生中で西部地区主体。初発例は 9 9 年 8 月。主要症状は高熱、全身の疼痛、リンパ節腫脹と嚔下困難。経過は数週。死亡例報告はなく、人から人への直接の伝播例もないようで現在感染経路と感染源についての検索が進行中（通常はダニ、鼠で汚染された飲料水、自然宿主（兔など）の肉の不十分な調理、汚染された土壌）。

髄膜炎菌髄膜炎：米合衆国で W 1 3 5 型による罹患者 3 例。

ポリオ根絶計画：1 9 9 9 年におけるポリオ根絶の進捗状況。9 9 年におけるポリオの流行国は 5 0 カ国から 3 0 カ国に減少し、サ - ベイランス網の整備により急性弛緩性麻痺（A F P）の報告数は 2 5 % 増加している。本報告は 9 9 年の世界のまとめである。

1 ) ポリオ常在国の分布を示す世界地図：南アジア、東地中海地区、アフリカ地区。

2 ) ポリオワクチン接種状況：ポリオ根絶のため下記作戦を展開中。定期接種の強化；途上国では 7 0 % 以下の地区が目立つ。全国一斉接種日実施と戸別訪問による地域小児全員接種、絨毯爆撃的接種；常在国のポリオ発生地区や国境地帯で実施されているが現場調査をすると実施率は 2 0 % 前後にとどまっている。

サ - ベイランス；A F P 報告率、ウイルス検査材料収集実験室検査網の整備は進捗しているがアフリカ諸国のように A F P 患者の 3 1 % しか検査出来ていない地区もある。

3 ) 現在のポリオ野生株消失地域：南北アメリカ、欧州、西太平洋地区。

4 月 2 1 日 - 2 7 日届出。コレラ：マヨット、ドイツ（輸入例）。